

まえがき

『ときわの杜論叢』創刊を祝う

国際戦略推進機構長、理事（国際・評価担当）・副学長 山田 均

国際戦略推進機構は、語学基礎教育を中心とし、グローバル人材の育成プロジェクトの企画をはじめとして、全学的な協力の下、発足させていただいた組織です。横浜国立大学には、もともといわゆる教養部がなく、全学出動方式で教養教育を行ってきた歴史がありますが、このところの大学院から学部への及ぶ多岐な改組の影響もあり、留学生センターを含めて関連教員に集まっていたのがこの機構です。まだ、脆弱な部分の多い組織ですが、横浜国大内だけでなく、国内、国外を問わず応援いただければ幸いです。

さて、新設の組織故の不具合が目立ちご批判をいただいている今日この頃ですが、英語、日本語、初習外国語や留学生指導をご担当いただいている先生方が中心になって、留学生センターの紀要を発展拡大する形で「ときわの杜論叢」が創刊されたことは、非常に喜ばしいことであり、非常に面倒な日常作業をお願いしている機構長にとりましては、ご同慶に至りに存じます。グローバル人材の育成の連呼が巷にあふれている今日この頃ですが、横浜国立大学としての姿というのはなかなかつかみにくいこととところにあります。たとえば、しばらく前までは世界に訴える行為と言え、学会で研究成果を発表することであり、学生を例えば研究グループの一員として先進国に送り出し世界最先端を学び、また世界各地から迎えた留学生を育てることでした。それが、グローバル人材とは、曰く「地球規模で物事を考えられる人材」、あるいは曰く「日本の良さも自覚した上で働くことのできる人材」、基礎的資質として「コミュニケーション能力」等々の議論が行われています。議論の行方はなかなか見極められないほど、多岐、多面にわたる老僧がなされています。しかし、よく見てみると、国際性を標榜してきた横浜国立大学で今まで行われて種々の教育の延長であって、教育の軸足を多少調整する必要はあるやもしれませんが、これ

までの教育ベクトルの元、いっそう活躍できる学生を輩出することが求められていることであることは明白です。つまり、教育系、経済経営の社会科学系、都市、環境を含む工学系の三本の専門の矢を世界的なトップレベルに際立たせることこそ、横浜らしいグローバル人材に育成であると考えております。そのために何をすれば良いのか。横浜国立大学の工学系ではいわゆる工学基礎科目を重視してきた伝統があることが背景になり、近年の改組で Engineering から Engineering Science と部局名を理工学部に変更、科学を広く基礎にした工学に姿を改めました。これと同様なことがコミュニケーション能力に代表される教養教育科目にもいえ、国際戦略推進機構としての重要性が増しているところでもあります。

最後になりましたが、本紀要により、国際推進の基盤を担っておられる先生方の成果が広く評価されることは疑いませんが、学生の基礎国際力向上にも広く使われることを希望し、私のお祝いとさせていただきます。